

¡Hola amigos!

RとNの Málaga からの手紙

(050号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2004年06月24日 R & N

目次	更新日
身辺雑記	2004年06月24日
Bar RyN	2004年06月24日
買い物百般	2004年06月24日
エクスカーション	2004年06月24日

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。
悪しからず。

* 身近雑記 *

「ジ(イ)ジ(イ)会議」ノ巻 2004年6月24日 最終更新

もう最近はスタれつつあるのですが、井戸端会議という言葉は女性専科だと思っていました。ところがココではどうやらこの言葉、ジー様用にあるみたいなんです。暑くなると特にそうですが、公園や歩道のベンチはジー様たちで埋まります。どのベンチにも三人五人と群れていて、座りきれないジー様は端っこに横向きにちょこんととまっています。不思議なことにバー様は殆どいません。たまに見かけることはありますが大抵は単独でジトーンとしています。

ジー様たちの多くもそれほど口数が多いわけではなさそうで、誰か一人がしゃべるのをジッと聞き入っているという事が多いみたいです。しかし、たまに議論が紛糾すると、もう座っちゃおれんとばかり立ち上がるジーさんもいます。何しろギッチリ座ったままでは、例の両手を一杯ひろげるジェスチャーもしにくいのでしょう。

私達も立ち止まって観察するわけではありませんから、一部始終をすべて見ているわけではありませんが、大概是時々思い出したようにボソボソと静かにしゃべっているだけみたいです。まあ、殆ど毎日のように同じメンバーが集まっているんでしょうから、新たな話題がそうそうあるわけありません。

かなり以前、日曜・朝のテレビ番組で時事放談というのがありましたね。細川隆元、小浜利徳のご両人が言いたい放題の愉快的な番組で、ジ(イ)ジ(イ)放談と言われていたようです。このご両人のように良く話すお年よりも居るには居ますが、一般的に日本の熟年男性は口数が多いほうではないと思います。まあ、老いて益々盛ん、と言う方もおいででしょうが、どちらかというとな女性より寡黙であると言っても間違いはないでしょう。

スペインの人たち、特にアンダルシアの人たちは男も女もとてもオシャベリだと思えます。動くのは口だけでなく顔全部が口みたいな話し方、更に身振り手振りも大げさで、何事が起きたか、と思うような勢いです。



その機関銃の乱射のようなオシャベリも、年と共にサスガに勢いが衰えはしますが、やっぱり一人でジットリしているのは風土に合わないんでしょうね。それで毎朝井戸端に集る事になるわけです。バー様はどうしてんだろ。

私達が買い物に行く途中の歩道です。白壁の上に黄色い鉄柵がありますが、柵の向こうは公園で子供の遊具がいろいろ置いてあります。この白壁の所々に窪みがあってベンチになってます。このベンチはどれもこれも午前中一杯ジ様たち専用です。

左から四箇所みなジ様が座っているのが分かりますね。ここでは15時くらいまではブエノス・ディアス(おはよう)ですからこの時間、13時前は「まだ朝」です。こうやって日陰を求めて公園やら歩道のベンチやらに座って定例会議。2時3時になるとウチへ帰ってコミーダ、そして後はお決まりのシェスタ。

このベンチは三人掛けですが、この日はやや低調。多い日は座りきらないジジが何人も立ったまま。座れないからといってヨソを探すという事はないようです。決まった仲間・縄張りがあるんでしょうね。アンダルシアではこんな風ですが、去年の夏行ったスペインの北、ガリシア地方ではがらっと違うようです。バルやカフェの静かなこと、客は大勢いてもみんな新聞や本を読んでいる人ばかりでシーンとしています。同じ国なのに、南と北でこんなに違うとは・・・。そうそう言語も違うんです。

ガリシアにはガリシア語ガ(イ)エーゴ **gallego**、バスコにはバスコ語バスクエンセ **vascuence**、カタルーニャにはカタルーニャ語カタラン **catalán** があります。日本でも北と南では言葉はずいぶん違うし、風俗・習慣にもかなりの違いがありますがテレビ・ニュースで字幕を出すまでの必要はありませんね。ところが、カタルーニャの州議会の模様や公式声明はカタルーニャ語なので画面の下に標準語であるカステヤーノ **castellano** の字幕が出るんです。こうなると、もう、風俗・習慣が違うなどという範囲を超えて、思考経路まで違ってたって不思議ではありませんね。標準語すら解らない私達でも何となく違いが感じられるほど違う言語です。

*

さて、ところで、いよいよユーロ2004の一次リーグは昨日23日で終り、決勝トーナメントに進む八強が出揃いました。

スペイン・イタリア・ドイツの三国は勝ち残れませんでした。欧州ではワールド・カップに優るとも劣らない人気の大会だけに、この三国のサポーターの敗戦ショックは大きく、夫々の敗退が決まったゲームでは何千という単位で観客席を埋めた夫々の国のサポーター達はただ呆然と立ちすくんでいました。そんなに大勢の人間が一様に言葉もなく呆然とする様は異様でもありました。多分、この三国のサポーター達にとって一次リーグで敗退するなどという事は考えも及ばなかったのでしょうか。選手自身も負けたショックは大きく、泣いている選手も大勢居ました。

昨日のチェコ対ドイツの試合は、徹底的に守りに徹するチェコに対して、攻めに攻めたドイツが結局攻めきれず負けてしまいました。ゲーム中センターラインのドイツ側にはキーパーのカーンしか居ないというシーンが度々ある変わった試合でした。

今日からクォーター・ファイナルが始まります。いきなり開催国ポルトガルとイングランドの激突です。勝負はやってみなければ分からないのは当たり前ですが、一次リーグの戦い振りを見た限りでは、やはりフランスとイングランドに注目したいと思っています。一次リーグでイングランドがフランスに負けた時はイギリス各地で暴動が起きたそうです。トーナメントの組み合わせでは決勝で又この両国が当る可能性も十分あります。決勝まで行って、又フランスに負けたらどうするんでしょうね。***

☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

(休刊のお知らせ)

既にお知らせした通り、この長い手紙もこの辺でしばらくお休みさせていただく事にいたします。長い間、取り留めのない話しにお付き合いいただき、本当にありがとうございました。この長い手紙を書きつづけていた間は、そのことがそのまま私達の生活のリズムにもなっていたと思います。当分の間、毎週木曜の晩は、何かやり忘れたんじゃないか、というような気がするのでしょうか。

13ヶ月50号、表紙を除くプリントがA4判868枚、画像は849枚でした。我ながらオシャベリが過ぎたと思います。忙しくしておられる現役の方には活字部分が多すぎて、見にくく退屈だったのではないかと反省もしています。

再刊について、当面考えているのはカーディスへの引越しが実現してからという事です。スタイルは少々変えたいと思いますが、いずれにしても「長い手紙」というトータル番組的HPにならざるを得ないでしょう。

私達はただスペインで暮らしているだけで、特に何をするという目的もなく生活しています。ですから再刊するとしても、ますます、私的な近況報告の色が濃くなっていくことでありましょう。そんなもので宜しければ、是非、また覗いてみて下さい。

多分URLもそのまま使うことになると思います。

これを書いていた間、なおざりになっていたスペイン語の勉強にまた取り組みたいと思っています。NもRも解らぬままスペイン語のニュースを見つづけていますが、最近、聞き取れる単語が時々あることに気づきます。勿論全部が解るわけではなく、ところどころですから相変わらず何にも解っちゃいないんですが、そんな程度でも大いなる進歩だと思っています。日常の買い物には不便はありませんし、まあ、なんとか安穩に暮らして行けると思います。最近の物価の急上昇だけが恐怖の的です。

なお、表紙でもお断りしましたが、来週からは新たな更新はなく、毎週一番古い週のモノから一週分ずつ削除して行って五週目即ち7月29日で全てを削除します。

では、皆さん、**Hasta la vista.** アスタ・ラ・ビスタ(またお会いしましょう)。

2004年6月24日 R & N

* B a r R y N *

「コミーダ総集編」ノ巻 2004年6月24日 最終更新

今週はRのコミーダ(昼食)レポトリの連発でいきます。主婦の読者の方には、こんなものが料理か、と叱られそうですが、ナンにも(シ)ナイよりはマシでしょう？
こんなもので講釈をするのはシャラクサイですから、ノーガキは最小限に留めます。



(ジャコ天サラダ、ソーハのパン、オリーブ、小麦ビール)

ソーハは憶えてますね、大豆パンです。全粒粉に大豆を炒って砕いたものが入ってます。ジャコ天の手前、白いのは晒し玉葱半個分、モホを混ぜてパンに乗けると、そりゃー、ウンマイ。後は特にドウということない生野菜。緑のピミエント、赤いピミエント、コリアンダー、エンダイブ、ニンジン、セロリ。ただもうやたらに切り刻むだけ。後はモホ・アホマヨショウ・オリーブ油・ライム汁ごちゃ混ぜにオマカセ。



(エンパナーダと塩もみサラダ)

エンパナーダはガリシア名物のある種のパイ。これはアツン(マグロ・フレーク入り) 勿論こんなもの作れません。コレはスーパーで調達。作ったのは右だけ。野菜を切って塩で揉んで絞った、言うなれば即席浅漬け。これはシンプルにライム汁だけで食べます。日本にいたときは「エバラ浅漬けの素」の大量消費者でした。



(野菜炒め風変形ポテトリョネーズ)

料理の本を見ると、ポテトリョネーズって色々作り方がありますね。これはあくまで「ビールを旨く呑める」ことに主眼を置いたもので、リョネーズだろうがマヨネーズだろうが知ったこっちゃなし。ジャガイモはチンしてから焦げ目がつくまで焼いて、ほかの野菜をソーセージと炒めてから全部一緒に混ぜて炒める。ソーセージが旨いかどうかで殆どデキは決まり。塩コショウ・各種香草・仕上げに醤油数滴。



(ポテト+ニンジン+キャベツ、全部まとめ蒸し=バポール)

これもポテトが主役。左からモホ・ベルデ、唐辛子味噌、バター(+醤油一滴)。ニンジンの向こうはコル・リサーダ col rizada=縮みキャベツ。日本では余りナジミがありませんね。硬いので生ではチョッと無理ですが、煮込んだり、このように蒸したりして良く火を通すとなかなかイケます。普通のキャベツより味が濃い(クセが強い)。



(ベトナム風・湯麺、コリアンダーたっぷりがR特製の特製たるところ、)

何度も言うように、コリアンダー・フリークです。冷蔵庫にナイことは一日もナイ。



(煮込み野菜ふうヘルシースープ+ジャコ天ソーセージ+パン・インテグラール)

何がヘルシーかというと、このスープ肉付けは例のジャコ天ソーセージだけです。

なにせ「ジャコ天」ですから動物性脂肪はごくわずか、豚の赤身が主材料です。

野菜は手当たり次第。玉葱・ニンジン・リーキ・セロリ・セロリの葉・キャベツ・白菜・生姜・ズッキーニ・ピーマン・縮みキャベツそしてコリアンダー。味付けは例の調味料五種・香草各種・酒醤油少々。塩分はごくごく控えめ、最後にライムを絞りかけると薄味でもシマります。パン切台は固いパンをゴシゴシ切るには便利な道具。

こうやって並べてみると、我ながら野菜の消費量がすごいと思います。その傾向は船を下りてから特に強くなったとも思います。船には勿論大きな冷蔵庫があり各種

食品を何十日分も、或いは何ヶ月分もストックしていますが、泣き所は野菜。

船向きの野菜といえば、ジャガイモ・人参・玉葱・キャベツの四種。これらはいずれも長期保存に良く耐え、しかも世界中どこへいっても比較的安い、貧乏船にはもってこいの食材。しかもフィリピン・コックのナンでも煮ちまうクッキングにも最適。

いま、その世界から足を洗って、いろんな野菜を食べられるのは無上の幸せ。***

* 買い物百般 *

「似非日本食」ノ巻 2004年6月24日 最終更新

昨日、スーパーに行ったら、私達のすぐ前をゆかた地で作ったワンピースを着たイギリス人らしい中年の女性が歩いていました。ゆかた地のワンピースはそれほど珍しくはなく、涼しげでナカナカいいじゃないかと思えるものです。しかし、この人の背中にはへたくそな字で「安物買いの銭失い」と書いてあるのです。そのほか、「袖振り合うも多生の縁」とか「情けは人のためならず」とか「貧乏暇なし」とか色々書いて

あります。こんなどこで買ったんでしょう。日本のオミヤゲ屋でカナ？

Rの海上生活の後半20年はずっと外国人との生活で、当然ながら料理人も外国人でしたから、乗船中、日本の味に対しては常に飢餓状態が続いていました。

だから、外国の港で日本の料理店、その殆どが「鮎」をウリにしていますが、たとえそれが横文字の「Sushi」であっても、そういうのを見つけると、嬉しくなって飛び込んで、その都度ガッカリしたものです。

ニッポン・ビジネスマン及びその家族が万単位で住んでいるような大都市には、社用接待で使うような「高級」日本料理屋もあり、そういう店では金に糸目をつけず航空便で直送された「高級」食材を使うのでしょう。しかし、それは無縁の世界。

港町の場末の一角にある、メメズののたくったような怪しげな字で「すし・やきとり」なんて書いてある店は、おしなべて、入った途端ガッカリするのがオチでした。

東洋風ではあるにしても、決して和風ではなく、だいいちオヤジの日本語すら変なアクセントで、食べる前からモーイーと言いたくなるようなのが殆ど。

今では、外国では決して日本料理屋には入るまいと堅く思っています。

スペインに来てからも、アチコチで日本料理屋の看板は見ますが、入ってみようという気にもなれないものばかり、所詮、国籍不明の食材で作った国籍不明の料理だろうと思ってしまいます。なぜなら、私達が普通に気軽に買える食材で、満足出来る日本の味はほとんど見つからないからです。



これは私達が良く行くスーパーの6月後半の特売パンフの表紙です。

PRODUCTOS ORIENTALES. **Muy cerca** と書いてありますね。プロドゥクトス・オリエンターレスは東洋の製品、ムイ・セルカとは「とても近くに」という意味ですから、まあ、東洋の味を身近に(手軽に)というようなことでしょう。

問題は海苔巻、スペイン最大のデパート・スーパー・チェーンのパンフレットの表紙に巻寿司とはうれしい限りですが、良く見るとシャリが「半殺し」になっています。この写真じゃ良く見えませんがこれじゃ、ボタ餅の海苔巻です。この鮓、誰が作ったのか知りませんが、憶測では多分マドリー(D)のどこかの日本料理屋の鮓職人が頼まれたのではないかと思います。まあ、言うならば、外地の日本食の典型です。

日本なら、スーパーの鮓売り場だって、もう少しマトモな巻寿司売ってます。シャリがつぶれた鮓なんて誰が買うもんですか。

でも、本当の日本の味を知らない人たちは、これが「Sushi」かー、とっててしまいますね。私達なら見ただけで、ニチャーッ、とした鮓だろうと判りますが、本当の鮓を知らない人は、食べてもそれがホンモノかどうかの区別も出来ません。



パンフレットの中身はこんなもの。この中で私達が知っている唯一の純日本製品は右ページ下から二段目中央のキッコーマン醤油の小瓶。これだけは我が家でも常備品。キッコーマン・デュッセルドルフ販売の正真正銘日本の醤油の味。そのすぐ上の瓶は醤油は醤油でも中国製で、私達の味覚では調味料ではなく何かの薬品かと思えるシロモノ。写真が鮮明でないので分かりにくいですが左ページの上半分はブルードラゴンというイギリスの会社の「日本風」食品、**Sushi-Nori** とか **Sushi-Rice** とか **Wasabi** など色々ありますが、全部ペケ。

そのほかは大部分中国製「日本食品」で、気に食わんことに、どれにもこれにも寝巻を着たようならしないサムライやゲイシャなどがプリントしてあります。

左下のニギリもシャリのでかい、お弁当屋さんの鮭。マドリー(ド)の鮭屋もろくなモンじゃなさソ。全くこんなのが「日本の味」と思われたんじゃ情けない。タダ一つ、救いは、このパンフレット、プロダクトス・オリエンターレス、「東洋の」、と銘打ってあって、決してハポネセス、「日本の」、とはしてありません。このパンフレットを作った担当者は、案外日本の事を良く解っているのかも・・・。エライ！***

エクスカーション

「続・汽車の旅」ノ巻 2004年6月24日 最終更新

先週は汽車に乗るところまで話が進みませんでした。今週こそ正真正銘汽車の旅です。「汽車」のと言ってしまいましたが、勿論、蒸気機関車に引かれる列車ではなくディーゼル列車、機車です。汽船(蒸気船)も現在一般商船では殆ど皆無で、正しくは(発動)機船というべきです。海難審判などの法律用語としてはその通り「機船」を使っていますが、商船を現す普通の言葉としては「汽船」の方がなじみがいいですね。

まあ、とにかく、今夜の宿も決まりリュックも放り出したので、何はさておき早速、明日の帰りの予約をしなければなりません。折角汽車に乗ろうと思っているのに、又ノセテヤンナイと言われたんじゃつまりませんかからね。

カデイス駅は最近建て替えたばかりでピカピカです。しかし古い駅を取り壊す前に、その奥に、と言うか、市街から遠い方に建てたのでその分アクセスは不便になってしまいました。現在、古い駅舎はなにやら改装工事をやっているのですが、それが完成すれば或る程度は便利になる可能性は有りますが、動く歩道などは期待するほうが無理ですし、街からの距離が縮むわけでもなく、結局前より不便になったことに変わりはないでしょう。利用者の便利を第一に、と考えていないことは、マラガ空港駅の例でも然り。折角空港近くを通る鉄道があるのに、空港駅は空港ビルからは長い歩道橋を約四百メートルも歩かされるのです。更にホームへ上がるのは階段しかなくローラー付スーツケースもここでは役に立ちません。スペイン有数の観光客受け入れ空港の駅がコレですから、いかに国鉄の姿勢がナットランか解ろうというもの。

空港ビルの地下は大駐車場になっています。その一角に、タッタ三両編成の電車の為の駅を造ることに技術的な問題があるとはどうしても思えません。別に地下にもぐらさなくたって、空港周辺は野ッ原で、なんの邪魔があるとも思えず、空港利用客に便利に乗ってもらおうという意識さえあれば、どんな工事でも可能であったはずです。

何故こんな不便な駅を造ったのか全く不可解。しかも、この駅も無人駅です。



これは新装なったカーディス駅、人造大理石の床はピッカピカ。ホームは6本あって(当たり前ながら)ここでは近郊線ともリンクできています。3～4番線がその近郊線でそこだけに自動改札機があります。一番線についている赤い電車は私達が乗るセビージャ行ですが乗車前の改札はなし。そうそう、この路線は機車ではなく電車です。こんな立派な駅が出来たというのにこの通りヒソソリで、いかに利用客が少ないかが解りますね。要するに一般市民は国鉄なんか当てにしてない、ということか。運行本数は少ないし、駅の場所は不便だし、運賃もバスより高いし、いいとこなし。バスは手近な停留所で乗れて、安くて、所要時間も鉄道にそれほど劣るわけでもありませんから客がそっちのほうに流れるのは当然です。国営でなければとっくに倒産して当たり前。長距離鉄道が採算割れするのは仕方のないことでしょうし、だからこそ「国鉄」なんでしょうが、もう少し、市民に利用してもらおうという姿勢がほしいものです。カーディスの近郊線は、例のシェリー酒の産地ヘレスまで約50分の路線で一日27本の運行。これだけが何とかバスに対抗できている様子です。セビージャ迄は1時間40分で一日12本、こっちの利用客はガクっと少なくてガラガラでした。

DE	A	CLASE	FECHA	HORA SALIDA	TIPO DE TREN	COCHE	Nº PLAZA	DEPARTAMENTO	Nº TREN
CADIZ	D. HERMANAS HORA DE LLEGADA-->: 16.33	U	10.06	15.00	REG. NAL EXPRES	SR CLIMATIZ.			3015
SEVILLA SJ	MALAGA HORA DE LLEGADA-->: 19.39	U	10.06	17.05	TRD	1 CLIMATIZ.	33V NO FUMA		3906

DTD TARIFA GENERAL METALICO BASE:***20,37 IVA 7%:***1,43
 Precio ***21,8000

DE	A	CLASE	FECHA	HORA SALIDA	TIPO DE TREN	COCHE	Nº PLAZA	DEPARTAMENTO	Nº TREN
CADIZ	D. HERMANAS HORA DE LLEGADA-->: 16.33	U	10.06	15.00	REG. NAL EXPRES	SR CLIMATIZ.			3015
SEVILLA SJ	MALAGA HORA DE LLEGADA-->: 19.39	U	10.06	17.05	TRD	1 CLIMATIZ.	34P NO FUM		3906

813 T. DORADA REGIONAL METALICO BASE:***12,24 IVA 7%:***0,86
 Precio ***13,1000

出札係は、気の良さそうな五十台後半位のオジさんでしたが、カワイソーにこの人、コンピューターは全く駄目で、私達の二路線にまたがる通し切符を発行するのがどうしても出来ず四苦八苦、応援を呼びにいつて漸く出来た切符が上の写真。この二枚が出来上がるのにたっぷり15分は掛かりました。ウソのような話ですが、全くのホントの話。だから、乗りたいんなら予約しろヨ、としつこく言うんだナと勘ぐりたくなるような非能率。この間、この出札口の客は私達だけだったのも信じられない話。このオジにとっての難問は先ず二路線にまたがる事、一人は通常運賃で一人はドラーダ利用であること、セビージャ行の路線は座席指定はないのにマラガ線は全席指定であること、乗り換え駅が二路線の終点・始点ではなく二つ手前の両路線の交差駅であること、などであろうと推察できます。オジさんたいへんネ。

ところで、上下二枚の夫々の右下の数字が運賃です。上のがN用21.8E、下がRのドラーダ割引13.1E。この割引率40%。これも聞いた話の3割引とは違います。教えてくれたのはリッパな日本人。全くもう、誰も信用できないんだカラ……。それともオジが間違えたか？ 何しろドラーダの券面には割引率なんかどこにも書いてないんです。間違えても言い訳しないですむようにかナ？



トイレと並んで近郊線の駅にはないもの、それはコインロッカーですが、カーデイス駅にはサスガにありました。これが又難物で、ただ小銭を放り込んで鍵を掛ければいいというモンではないんです。先ずロッカー専用の「コイン」をコイン販売機で買ってそれを鍵穴のようなコイン挿入口に入れます。コインの表面には溝があって挿入口の溝とあわせて入れてから鍵を掛けます。鍵が二重になっていると思えばいいんです。何故こんな必要があるのか？ コレも理解に苦しみますが、それはイイとして困るの

は、この鍵のようなコインを買うのにいくらなのか表示がありません。

近くにいたチョッと偉そうな駅員に聞くと小は3E、大は4Eと教えてくれました。次の日、今度は電車に乗るために駅に行ったら、今度はちゃんと料金表示板がありました。私たちが聞いた相手がすぐ対応したんなら、たいしたモンですが。たまたま何

かの都合で元々あった案内板をどこかに置き忘れていただけかも・・・。

まあ、とにかく明日の予約は出来て、乗せてイタダケルことが決まり、やれやれと街に帰ってきました。駅に行くのも帰るのも「歩き」しかありません。バス会社と国鉄は何の関係もないから「駅前」というバス停はないんです。「駅行」のバスも勿論ナシ。港が見えるところまで帰って来ると、岸壁にはイギリスの訓練帆船が係留していました。柵の外からは船名が読み取れませんでした。サイズから見て民間の船でしょう。



前に、私達の町のバス会社をクサすと共に、カーディアスのバスの素晴らしさをお話ししましたが、覚えておいでですか？これがカーディアス市内のバス停の案内板です。先ず中段は路線図でこの路線は2番であると明記してます。この「当たり前」が我が町のバスにはないんです。信じられないでしょうが路線番号などないんです。コレだけでもビックリなのに、この路線図には全ての停留所が書いてあって、この停留所が、ナントという名前で、ドコ(路線図でココ)だ、とも明記してあります。路線の乗り換えが出来る停留所と乗り換え先の番号も明記してあります。我が町のバス停には名前すらないんです。再び、信じられないでしょうが、ホントです。もうコレだけでも卒倒モノなのに、更に一番上。カーディアスの正確な白地図に各路線を色分けして記入してあります。初めてこの町に来た人も、これなら一目瞭然。更に更に、一番下。コレは一日の時間帯ごとの運行頻度、この時間帯なら何分間隔ですよ、と言っているんです。もう脱帽です。Rがしきりにカーディアス、カーディアスと言う理由の一つは実はこういうことなのです。ちょっと大げさですが、住民の意識の高さがバス会社にイイカゲンな運行を許さないのだ、と信じます。その全く反対の極が我が町。サマー・リゾートだけで食っている地域のどうしようもないイイ加減さなのだと言い切ってイイと思います。



このタイル絵はカーデイスの長距離バス駅のもので、カーデイス県内の長距離バス路線図です。地図の形・縮尺は正確。市内だけでなく市外へ出かけるのもこれを見ればこれ又一目瞭然。コレも我が町は勿論、マラガ県のドコでも見れない物で、何故こういう発想が出来ないのか、もうホントに不思議と言うしかありません。同じスペイン同じアンダルシア州なのに・・・。もう一つ、我が町のバスの不思議は、バス・カード不在です。私達の経験ではカーデイスは勿論、グラナダだって、カナリーのテネリフェ島にだってあったのです。何故、我が町のバスにはないのか？ 繰り返しますが住民の意識にこそ問題があると言わずにはおれません。バスの車内も、車体外部もいつ掃除をしたか疑いたくなるほど汚れきっています。綺麗なのは新しいウチだけ、多分掃除は一切シナイのだと思います。話しは少々飛躍し過ぎかも知れませんが、我が町の郵便事情のイイカゲンさも、バス会社の程度の悪さと共通の問題であると考えています。ツマルところは住民の意識の低さに行き着くのではないか。外国人は勿論の事、その外国人で食うために全国から、又は外国からさえ集まってきている住民は、我が町を住みよくしようという意識に甚だ欠けているのではないか、と思うのです。



不動産屋がシェスタ明けになる午後六時まで、町を散歩しました。これは銀の匙の先端部分、旧市街の一等地です。水平線に沈む夕日も、目の前を通過して港に出入する船もこの辺からなら正に一望、言う事ナシのロケーションです。

こういう所は御多分に洩れず全てオオヤケの施設で占められています。何しろ紀元前11世紀の昔から港として機能していた場所ですから、そんなところに私有地などある筈ありません。たとえあったとしても当然、手が出るような、手が出せるような物件ではない筈、ナイモノねだりというモンです。例のパラドール、Nが泊りたいパラドールは右手の先端を回りこんだ向こうに有ります。そのパラドールの隣地に二棟の高層アパルタメントがあつて、ひそかにその貸し物件が出ないものかと思つてい

るんですが、よしんばモノは出ても、手は出ないだろうと思ひます。

シェスタのための閉店時間は業種により、店により多少の違いはありますが、大体2時半から5時半。でも不動産業界は少し遅めで3時から6時という所が多いらしい。それも店の方針次第で色々です。私たちが今日のうちにまわろうと思うところは殆ど

午後の部は6時から8時半。そろそろ開店の時間です。



この辺、港が市街地に一番食い込んでいる所。旧市街と新市街の境目でもあります。帆船の向こうに広がるのが新市街で、旧市街はこの写真の右手です。私たちが回ろうという不動産屋もこの辺に集中しています。

最初の四軒は空振り、五月に行った時と変わらず。五軒目に手ごたえがありました。海も見える、夕日も沈む、三寝室で500ユーロ、但し空くのは10月、というものでした。じゃあ、明日見せてもらいましょう、と次の日また出かけました。この店は5月27日号のエクスカッション「カーディスへの道」に写真が出ていたムンド・カサMUNDOCASA という所で、私達の宿から徒歩一分です。翌朝、といっても11時、約束どおり店に行くと、案内のセニョリータに紹介されました。そしてナント私達は市内バスで現地に案内されたのです。この前の時はごく近かったので徒歩でしたし、不動産屋が物件の案内をするのに車を使わないという事に、なにか親しみを感じました。現地はバス停からも近い海辺の最前列の建物、ややクタビレ加減ではありますが、立地条件は申し分なし。ところが、案内された部屋は海側ではなく、パテオに面した内側。エッ海側じゃないの？ だって海が見えると聞いてんだけど。と言うと、家主のセニョーラは「シー、シー **Si, Si**, はいはい見えますとも」そして小さい寝室のカーテンをめくって見せて「ホラネ」そこには隣のビルとこのビルの前側の棟に挟まれた「切り取られた」海が見えました。シーはシーでも部分的なシーsea でありました。



海が見えると言った不動産屋の言葉にはウソはなく、それが夕日の沈む方角らしいのもその通りでしょう。最前列の「建物」である事も間違いない。しかし、これでは苦勞して引っ越す甲斐がないというもの。次の機会を期待して今回は撤退。

私達も、もう一度条件を洗いなおしてみようか、という気になっています。家具つきという事にこだわると物件の幅は半分以下になってしまうようなんです。今居るリゾート地では家具つきが至極当たり前なんです、カーディスの貸し物件は元々外国人向けではなく、逆に家具のないところのほうが長期の貸しを見込んでいるものと考えられるのです。まあ、とにかく今回はコレで引き下がることにしました。

昨日予約した15時発のセビージャ行に乗り込んだところ、こんな状態で、何故、予約が必要なのか？ とマタマタ大疑問のガラガラ。私達の乗った箱は右手のカッパオジサンのほかにパラパラと数名だけ。私達が下りたセビージャの二つ手前までの間、少しずつ客は増えてはきたもののせいぜい四割程度の乗車率。結局、昨日の予約はこの後のマラガ行の為だけだったのです。この電車は3両編成で一日12便、先週お話しした首都から放射状交通線の一部。途中で乗り換えるマラガ行き機動車は2両編成で一日6便、こっちは環状交通網の一部。そっちは予約ナシでは乗れない程なのに、車両編成をかえるでもなく、便を増やすでもなく、です。一方放射線の方は環状より便利・頻繁なのに、外にも交通手段はあるので利用者は少ない、というチグハグ。



途中通過したヘレス・デ・ラ・フロンテーラの駅のホーム。綺麗なアラベスクの絵タイルが壁を飾っています。ここがカーディスの近郊線の終点だということを知っていたら、往きにこの町でバスを乗り換えるんじゃなく、電車に乗り換えるんだったのに。マラガ行に乗り換えるドス・ヘルマナス **Dos Hermanas**=二人の姉妹、という洒落た名前の駅はセビージャの二つ手前。どのくらいの距離か知りませんがセビージャ郊外である事は間違いありません。私達がここへついたのは午後4時半、暑い盛りです。セビージャの暑さを、一言でアンダルシアのフライパンと言いますが、今年になってから既に43度なんていう電光掲示板をテレビで何度も見せていました。去年は40度台どん詰まりのほう、48度という数字を覚えています。

このときのドス・エルマナスの暑さも並大抵ではなく、小一時間の待ち合わせの間、Nは風通しが良くて比較的涼しい待合室で青息吐息。多分40度は軽く超えていたのでしょう。Rは夏のペルシャ湾でやはり45度以上の暑さを経験していますが、そのときは皮膚がヒリヒリしたものでした。駅前広場を歩きまわって電光掲示板を探しましたが、見つかりませんでした。待合室のベンチでは数人のジジが座り込んで時々思い出したようにボソボソと話しをしていました。どうやら近所のジーさまが涼みに来てるらしい。駅は天井が高くて風も吹き抜けるので格好の東屋にしてるんですね。



セビージャ発・マラガ行の機車は満席。コレで予約、予約としつこくいう意味は解ったものの、だったら、何でもう一輛繋ぎがネーダヨ、という疑問が再び・・・。
車窓から見えたのは往きのバス路線とは全く違う風景です。こちらは平地でもずーっとオリーブ畑の連続。マラガに近づくとオレンジ・レモンの柑橘類が多くなります。



最後の一枚はマラガ発マドリー(ド)行のタルゴという急行。編成は、はっきり数えませんが7～8輛位でしょうか。セビージャ・マラガ間の2両編成とは質・量とも比較になりません、この国の交通網の一極集中のいい証拠。そのほか飛行機並みの贅沢な特急AVEというのがありますが、路線が限られていて私達には無縁の存在。特急に乗って急いでどこかへ行く用もありません。では、皆さんもどうぞ良い旅を・・・。 **¡ Vaya con dios !** (バーヤ・コン・ディオス=神ト共ニ・・・)。 ***
